



町長室だより

築上町長 新川 久三



6月になり暑気を感じる季節となりました。また麦刈りと田植えが同時にやって来ている今日この頃です。そして直ぐに梅雨入りです。

「地域おこし協力」隊員決定 (総務省特別交付税事業)

4月に緑のふるさと協力隊として藤田伸平君(地球緑化センターから派遣)が着任しましたが、7月1日には「地域おこし協力隊員」が赴任します。隊員は千葉県我孫子市在住の船木陽子さんです。船木さんは公募により築上町嘱託職員(最長3年間雇用)に採用され、上城井地区6自治会で構成される「上城井ふれあい協議会」の活動を中心に「上城井地域づくりビジョン」の実施など地域の活性化のために活動していただくこととなります。また、船木さんはIT分野のほか野菜ソムリエやワインエキスパートの資格を有しており、「食」の面でも活躍が期待されます。

※「地域おこし協力隊」とは、総務省が行う過疎対策の一環で人口減少

や高齢化等の進行が著しい地域において、意欲ある都市の人材を受け入れ、その定住・定着を図ることで、地域力の維持強化を図っていくことを目的とする制度です。この経費については地方交付税(特別交付税)で財政支援されます。

し尿(旧築城町分)有効利用へ

5月13日の豊前広域環境施設組合(構成団体:豊前市、みやこ町、築上町)の議会で、築上町が「平成29年3月31日を以て脱退をする。」旨、事前に文書にて通告していますが、これで組合議事が紛糾しています。なぜ脱退するのかを説明すれば、旧稚田町では平成6年3月31日この組合を脱退し、4月からし尿処理は独自に肥料化する施設を稼働させています。この施設の運用により、広域処理に比べ年間処理費が2千万円から3千万円の節減に繋がっています。

また農家はこの液肥を利用することにより、10アール当たり7千円か

ら1万3千円の肥料費の低減となっており、ある大規模農家では百万円以上所得が増えています。

農家からも「液肥を使いたいのが何とかならないか。」といった要望が多く寄せられています。現状は液肥の生産量が不足し期待に届えられていません。

一方組合の方でも、現在の処理施設が老朽化して、新しく建替えるか長寿命化の設備投資をするかの岐路に立たされています。組合の理事会で、常々私は大きな設備投資のあるときは築上町財政節減、並び農業振興のためにも独自にし尿処理を行った方が良くと主張を行ってきました。理事会では、組合からの脱退についてある程度理解が得られていますけれども、豊前広域環境施設組合では初めてのことで理解を得られないまま議案が開催され混乱しているのが現状です。

6月4日開催の築上町議会に「豊前広域環境施設組合からの脱退」議案を提案することになっています。この議案が可決をされれば2年後には組合からの脱退が可能になります。

梅雨の季節となり町民の皆様には体調にご留意いただき、特に食中毒の多い時期ですので生ものには気を付けてください。

福岡自治会で60年ぶりの山車巡行

5月11日、福岡自治会で神幸祭が行われ、約60年ぶりに山車が復活し、地区を練り歩きました。

この山車は明治初期のもので、若者の減少で昭和20年頃を最後に途絶えていましたが、平成21年に「福岡山車振興協議会(森市徳会長)」を設立し、山車の修繕を行いながら復活を目指して行いました。その後、平成25年度には、自治総合センターの一般コミュニティ助成事業で車輪と垂れ幕などを作製し、今回の再デビューとなりました。

また、長年途絶えていた御囃子についても、子どもたちへ継承するために、今回の巡行にあわせ津田三男さん(福岡)らの指導により練習を重ねてきました。

当日は、西角田地区子供会や町外で暮らす地元出身者など多数が参加し、「子ども神輿」も巡行。メイン会場の福岡公民館前では、山車を舞台とした演芸大会が開催され普段静かな里は大賑わいの一日となりました。また、福岡自治会(森茂雄会長)では、これを契機に今後隔年で山車の巡行を続けていく計画と

